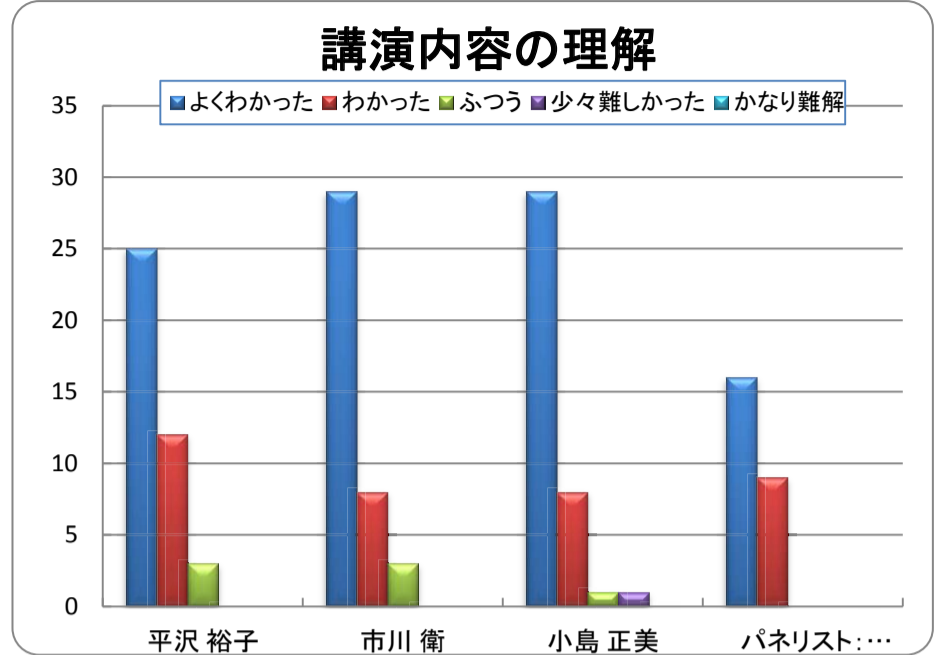
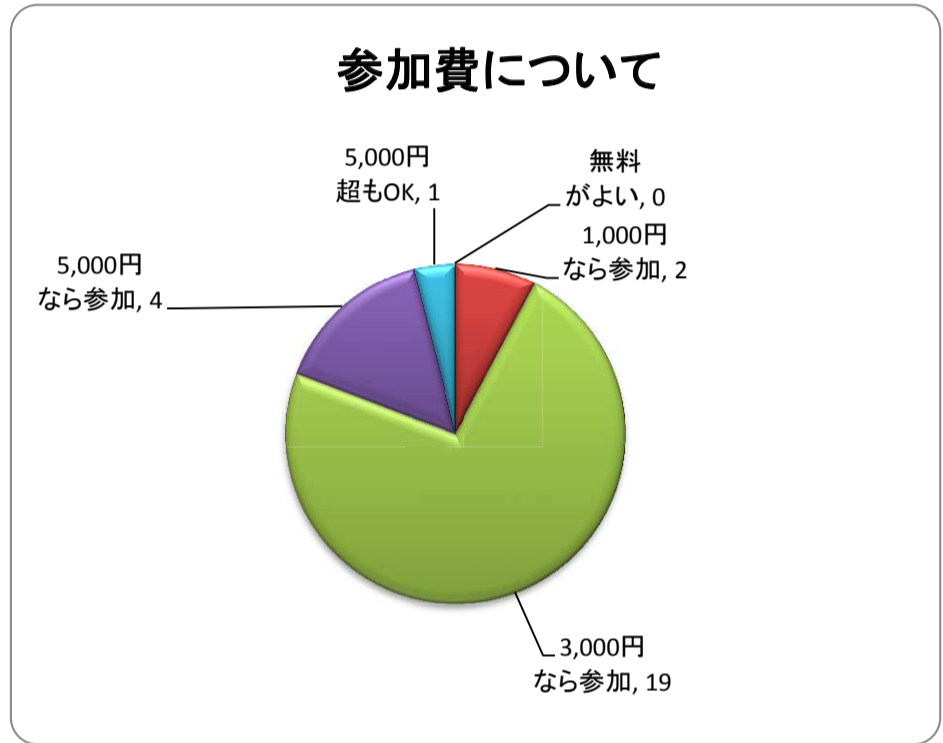




No.	テーマ	講師	よくわかった	わかった	ふつう	少々難しかった	かなり難解
1	メディアが広げる誤情報 課題は記者のリテラシー向上?	平沢 裕子	25	12	3	0	0
2	『「伝える」から「伝わる」へ ~行動変容を目指す情報プレゼンの極意、教えます』	市川 衛	29	8	3	0	0
3	なぜ科学者は市民に負けるのか ーメディア・バイアスの実態とその対処法	小島 正美	29	8	1	1	0
4	パネル・ディスカッション: 『メディアからの食のリスクのあり方~市民のリスク誤認をどう解消する?』	パネリスト: 講師3名 進行:山崎	16	9	0	0	0

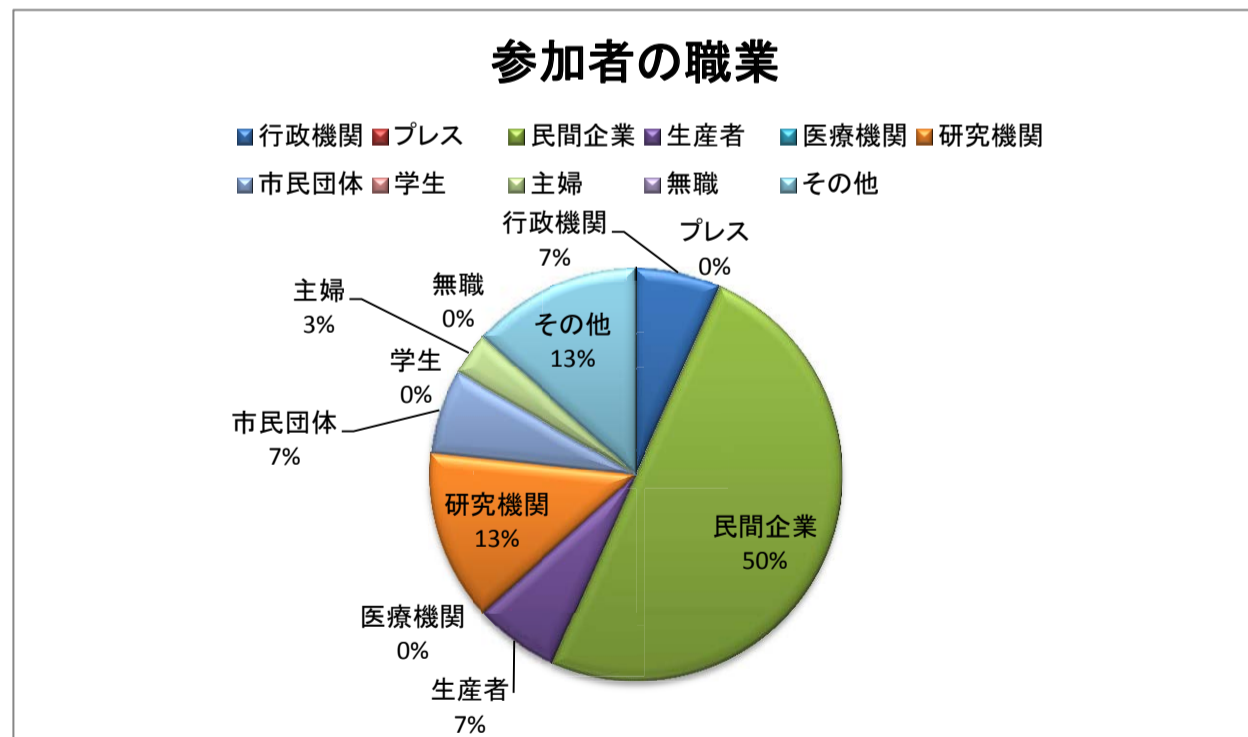


	無料がよい	1,000円 なら参加	3,000円 なら参加	5,000円 なら参加	5,000円 超もOK
今回のフォーラムの参加費(NPOへの賛助)についてどう思われますか?	0	2	19	4	1
今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でも教えてください。	(別紙)				
今後、食の安全・安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?	(別紙)				
メディアからの食のリスクのあり方~市民のリスク誤認をどう解消するか、についてご意見ください。	(別紙)				
当NPO季刊誌を購読希望される方はあて先(郵便番号・住所・氏名・所属機関等)をご記入ください。なお購読にあたり、1口(3,000円)の寄付をお願いしております。	(別紙)				
当NPOからメルマガ(ご案内メール)を不定期に発行しております。無料購読を希望の方はメールアドレスをご記入ください。	(別紙)				



職業

行政機関	2
プレス	0
民間企業	15
生産者	2
医療機関	0
研究機関	4
市民団体	2
学生	0
主婦	1
無職	0
その他	4



1	メディアが広げる誤情報 課題は記者のリテラシー向上？	平沢 裕子
1	メラミン牛乳などだけではないことが良く分かりました。	
3	・自身の経験により、メッセージを変えられることは、すばらしい。 ・天然・自然はゼロ？変異原性物質は周りにたくさんある。これはゼロ？	
4	確実な根拠のない報道事例、その勢いに押されて実際の安全とは関係のないことに労力が使われる現実を改めて意識しました。ゼロリスク(低リスク)を示すことが必要だと思いがちですが、よく考えたいと思います。	
5	記者の方でさえ、数年で考えが変わることに興味をもちました。	
7	三大誤報・おもしろかった・でもそれだけでは済まない。反省がないことが問題とあらためて感じました。	
8	ご自身の反省点をきちんと挙げられている点には共感いたしました。	
10	正しい情報をどうしたらメディアが取り上げてくれるのかは、基本的だが永遠の課題だと思いました。	
15	記者の内部事情が知れて良かった。	
16	平沢さんが何年もかけて理解してこられたことを、今後どのように活かしていくのか(メディア・記者・行政・民間などそれぞれの立場で)がカギであるように思われました。	
20	ていねいなお話でした。	
21	記者・デスクには正しい情報、が実は誤情報だったことは、よくあるんじゃないかと思いました。	
22	・文系・理系と分ける習慣はよくないですね？ ・フランスは農作物を売りたいのでは？(超加工食品のカテゴライズの理由) ・清涼飲料は砂糖(シュクロース)より、ブドウ糖・果糖が圧倒的なんです。	
23	メディアの情報の伝え方の難しさ、問題点、反省点などご自身の経験をもとにお話いただき、とてもわかりやすかったです。	
25	食生活の変化と健康をトータルとして考えて頂くとうれしい。	
29	悪評など負の感情をもつものほど拡散しやすい。正しく伝え、正しい情報を得るには一般市民も学ぶことが重要だと思いました。	
32	勉強不足や知識不足はしかたがないにしろ、企業利益の為に誤っていると気づきつつも報道してしまう体質は何とかならないでしょうか。	
35	現場の苦勞がしのばれました。	
36	風評被害などを広げたなど、メディアの罪・限界が素直に伝わりました。	
39	誤情報を多面的に分析して整理されていた。	

2	『「伝える」から「伝わる」へ～行動変容を目指す情報プレゼンの極意、教えます』	市川 衛
1	全てが参考になりました。	
3	最終目的を達するための方法は、とてもよく理解できる、多くの場合、上手くいくと思うが、プロセス自体が理や義にかなってない場合、だましていることにはならないのか、ちょっと疑問でした。	
4	説得から共感、個別性の高いメディアの広がりなど心にひびく講演でした。若齢者を中心に、鶏の生食の危険性(カンピロバクター)を知らせる広報に悩んでいて、いろいろ考えさせられました。	
5	目的が何かまでは考えるが、達成する為の問いから考えなおすことは面白いと思い、トライしてみたいと思います。	
6	内容はもとより、プレゼンテーションの方法も大いに参考になりました。	
7	どうしても専門的になってしまうことを反省しました。	
8	ユーザーのインサイトはポイントと思いました。	
10	テレビ側の論理がよくわかりました。SNSの時代でも、ひきつづきテレビの影響は大きいので、子宮頸がんワクチンのような誤りをテレビはしてほしくないと思います。	
13	そもそものプレゼン力が高く、興味をもつことができました。	
15	情報発信者として勉強になる点が多くて良かった。	
16	「伝える」ことの先の目的をメディアの方が考えていることが興味深く思いました。	
19	ほとんど聞いたり読んだりしたことがなかったので、大変助かりました。	
20	とても分かり易い説明でした。	
21	とてもわかりやすく、聞きやすかったです。勉強になりました。	
22	・おいしいものが売れるのは当たり前。 ・人間生理に忠実に。人に寄り添うことですね。	
23	大変興味深い内容で、コミュニケーションのやり方を工夫してみようと思った。	
25	「がってん」は分かりやすいが少数のパネルを使った検証試験は、どの程度確度を保証しているのか⇒フェイクの危険性？	
26	健康的な選択をしてもらうためには、表現を選ぶという話は、内容としては間違っていないのですが、消費者の無知や誤解を利用して、真の目的に誘導する事になり、非論理的では？	
29	正しく伝えるには、伝える相手を理解し、共感することが大切だと実感しました。	
32	コミュニケーションの本質を考えるきっかけになりました。	
35	化学物質にリスク関係の業務に携わっていたことがあり、情報の伝え方として、目からウロコの内容でした。	
36	目からウロコです。伝える相手の目線に沿った発想は、とても難しいですが少しでも近づけたいと思います。	
38	正しく情報を伝えた上で、正しく伝わり、求める成果を導くために、発想の転換が必要だと感じました。	
39	インサイトをさぐるることについて、例が示されると、よりわかりやすかったと思う。	
40	参考になりました。	

3	なぜ科学者は市民に負けるのか ーメディア・バイアスの実態とその対処法	小島 正美
3	・メディア内部の「さもあらなん」ということを具体的に示され、分かり易かった。 ・何故このような不合理が是正されないのか、どうすれば変わっていくのか考える良いキッカケとなった。	
4	少数意見、市民団体、不安主張にマスコミすら弱く、受け入れがちということを改めて認識しました、あらゆることにエビデンスを用意して説明することは難しいことですが、いといと考えさせられました。	
5	感覚的に良く理解ができた。”なぜ”というところまでは、なかなか到達しないように感じました。	
7	消費者団体にも今は、多くの考え方の団体があり、ひとくりにするのは少々よくないと感じました。少数派も大切であるが、それが伝えられていないことには納得。	
8	両論併記は、ある時には味方にもなりますので、悩ましい問題と思います。	
9	豚肉は一般的にはホワイトミートかと思います。レッドミートは通常は牛肉と羊肉。牛肉も仔牛肉はホワイトミートに分類されます。	
10	両論併記の問題点について、メディア研究論文として科学的根拠を示して、出せないでしょうか。	
13	実例が多く、わかりやすかったです。	
15	メディアには前から期待していないが、信頼できる記者を見つけようと思った。	
16	メディアの特性、市民団体の力の強さがわかり、興味深かったです。小島さんが何年もかけて理解してこられたことを今後どのように活かしていくのか(メディア・記者・行政・民間などそれぞれの立場で)がカギであるように思われました。	
19	明解な説明でした。小島氏の話聞いたのは数回目なのですが、新しい考えも足されていて聞いて良かったです。	
20	痛快なお話でした。	
21	両論併記の慣習は興味深く存じました。ロコミの魅力のように、一般的な意見の強さは強いと思うので、記事が読まれるためには必要と思いつつ、科学者の意見がうもれてしまうので難しいなと思いました。	
22	・メディアの特性を国民が知る機会が必要と思いました。 ・モンサントは大昔(植民地時代)から嫌われてましたね。	
23	正しい新聞記事を書くことの難しさ、書けないことのもどかしさが、よくわかり興味深かった。	
25	権力とその代弁者への忖度が大きい問題であるが、その点を触れないのは不思議?	
26	メディアは「市民・大衆の代理」「権力を監視する真実の使途を期待されているは、誰によって期待されているのでしょうか?本当に?	
29	メディアも正しい情報を伝えたくてもできない。市民感情に響くデスク受けする。このことを踏まえて新聞記事を読まなくてはならないですね。	
32	新聞社も雑誌社も企業である事なので、しかたないのでしょうか。	
34	映写してる資料と配られている資料に大きくズレがあり、わかりにくい。(話についていきにくい)	
35	記者も人であり、メディアも企業である限り、おのずと偏りが生じることを認識しました。	
36	恐い話をおもしろく話していただきました。事例が沢山の、やや消化不良です。	
37	市民の声が最も強いことが、よくわかりました。 ⇒良くも悪くも恐いことです。	
39	経験の中から素直に情報を出されて、正面から問いを作られていた。	
40	興味深かったです。	

4	パネル・ディスカッション: 『メディアからの食のリスクのあり方～市民のリスク誤認をどう解消する?』	パネリスト: 講師3名 進行: 山崎
3	オフレコ情報もあり、論議は楽しく聞けた。強いて言うと、これからの改善、参加者の行動につながる方向性(提案)に時間を割いてよかったのでは。	
4	記者は意見があって、その後ろ盾のために学者などに話を聞く。毎日毎日書かなくてはいけないし、読者数も保ちたいでしょうし、大変だなと思います。行政も正しく確実な情報を出すよう努めます。	
8	楽しく聴かせていただきました。	
15	人間はまちがえる生き物という前提で生きようと思った。だから、まちがえても恥じる必要はないので、間違いは訂正してくれればOK。	
22	・SNSは大きいと思います。⇒スピード・リソースの幅が広がる。 ・伝えることは難しいですね。バイアスを乗り越えることも。	
23	タイトルの「・・・リスク誤認をどう解決する?」に関するディスカッションがあまりなくて残念! 質問はたくさんあったと思うが、時間の許すかぎり採用してほしい。	
25	司会がしゃべり過ぎ	
26	間違いは誰にでもあるものは、その通りですが、メディアに報道される側にも同じように接してほしい。メディア自身もメディアのダブルスタンダードで信頼を失っている。	
29	伝える側の努力、苦勞が受け手に伝わっていない。きちんと取材した記事より芸能文化が読まれる悲しさ。	
32	SNSはコミュニケーションツールですか。情報伝達ツールとして、取り扱うのが難しい部分だと思いました。	
35	現場の微妙な話を聞けて、楽しかったです。	

5	今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。
3	いつもより参加者が多い、熱心にメモを取っている⇒演題はポイントですね。
4	自戒を含めて正直に丁寧にお話しいただき、ありがとうございました。あらゆる意見がありますが、その取り上げ方、対応の仕方をきちんとするよう努めることを認識しました。
5	メディアの方のお話は、皆様とても面白かったと思います。
6	メディアに従事されている先生方の率直な話がとても良かったです。
8	メディア側の率直な悩みを伺うことができ、大変役に立ちました。ありがとうございました。
12	NHKの市川氏を招いたのは大変良かった。
13	有意義な時間をありがとうございました。
14	当然ですが、すっきりしない議題でした。
15	自分の知らない点がたくさん知れてよかった。
16	今回はいつもの科学的な立場ではなく、メディア側からお話を伺え、知らないことが多く、勉強になりました。メディアは大きな存在であり、間違えた場合の影響も大きいと痛感しました。メディア自身、またメディアと行政・市民・民間との関係を今後どうしていくのがよいか考え、よりよいものにしていくことが非常に大切と思いました。
19	「伝わる」ことで行動変容を起こさせるのは、家庭科教育でいつも昔から難しいと悩むところです。
21	自分は研究者側の人間なので、メディアの方々のお話を聞けるのは非常に重要でした。
22	メディア(記者)のリテラシー教育は大きいですね。 エイプリルフールは、メディアがウソを言う、キケンのアピールをするヒトがいますね。
23	アンケートに「面白かったか」という観点もあった方が良いのでは。 (良くわかったけど、つまらない場合もある)
24	もっと若い人に参加してほしいと思う。また今後、有益にコミュニケーションをとるために参加者一覧(OKした人だけでも)を資料に入れてほしい。
25	かなり一方的な印象
26	毎回、大変興味深く素晴らしいフォーラムと感じています。専門家のクローズな環境でフリーに話せると、こうも良くなるのかと感心します。
29	新聞・テレビ・SNSなど多くの情報源がある中で、発信された記事が本当に正しいのか判断する力が必要だと感じました。
30	食にとらわれない見方で、リスクコミュニケーションを考えられて良かった。
32	今の韓国と通ずるものが感じられます、まともな考えは、表に出にくいのだろうと思います。
33	情報とかコミュニケーションについて、すごく考えさせられました。おもしろかったです。(想像していた内容とは少し違っていました) 「風評被害」については、対応のスピードにも問題があるのではないかと、社会不安をおさめる最初の段階と、その直後の対応を分けていかなければいけないのでは？
34	コーヒープレイクは無くても良いので、もう少し早く終了になると良い。正直、日曜なので、もう少し早く家に着きたい。
35	4大新聞のうち、2社から科学に重点をおいていない(誤認があったらすみません)といったコメントに驚きました。
36	いつもPDFが即UPされていて、(回覧などで)とても助かります。
40	メディアの方のお話を聞くことができて参考になりました。

6	今後、食の安全・安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか？
2	食の“安心”を与える策、コンテンツ例 市川氏の本日の発表の具体例、提案など深掘りしたお話を伺いたいです。
7	・ゲノム編集を、遺伝子組換えと同じようにならないためには、どうしたら良いのか。 ・「無添加」「不使用」の規制等を、もうけてほしい(わかりやすい)
13	中食需要、スーパーコンビニに対する、どういった情報提供を消費者は求めているものか、が知りたいです。
15	消費者団体を呼んで、何かしらのテーマでディベート対決する。
20	健康食品、サプリメントの問題
22	健康とスポーツロジーの専門家にも来てほしい。 糖尿病は運動不足の要素が多いのでは？
26	海外との規制の差、国際調和について 食品表示
30	ゲノム編集技術のような最先端技術に関する世界情報
33	今日の話でも何度か出ていましたが、「文系」「理系」をどう克服するのか、ということも一度やってほしいです。
35	基準値の解説、数値ゆえに一人歩きしてしまう傾向が強いと思います。

7	メディアからの食のリスクのあり方～市民のリスク誤認をどう解消するか、についてご意見ください。
2	一般の方の情報リテラシーを上げる必要があり、情報リテラシーの重要性をもっと学ぶ機会があればと思います。
14	市民からアプローチする方法論を考えるべき。
15	人間一人一人のメディアリテラシーの向上に尽きる。教育にも力を入れる。一人一人が知識をもてば、変な話にのることはない。
22	特定現象について「食」だけで論じないで、視座を変えてみる。メディア自体を知ること。
24	例えば、BTコーンであれば、アワノメイガと人の消化液のphの違いをしっかりと伝えることで理解が進むと思う。わかりやすくそうした点を解説していけば良いと思う。
25	演者はそれぞれ主張を聞かせてくれた。
26	SNSの力もあり、感度の高い人には解消が進んでいると感じるし、その様な統計を見た事もある。どんなに正しく伝えてもダメな層については、本人はあきらめて発信力を封じる方向が良い。グーグルが医学情報についてコントロールをはじめたのが好例。
31	食品メーカーにとっては、メディアは敵となる面が多いと感じていましたが、今回のようなテーマを取り上げるSFSSの度量の大きさを感じます。大変参考になりました。
32	学校教育での導入
33	伝えたい側のリテラシーを高めることは、やはり重要。ユーザー側に期待するのは難しいと思うから。それを前提にコミュニケーションをとり続けることは必要。とりあえず、こちら側を向いている人だけでもいいから。実は興味を持っている人は多いはずなので。
35	市民の科学リテラシーの向上も必要であると思います。本会で扱うべきか別として。